

平成27年度 第3回弘前市廃棄物減量等推進審議会 会議要旨

- 日 時 平成27年12月7日（月）13時00分～
- 場 所 弘前地区環境整備センター 管理棟3階会議室
- 出席者 高野委員（職務代理者）、安東委員、太田委員、川越委員、
鈴木委員、高木委員、竹谷委員、田澤委員、館委員、戸澤委員、
福士委員、藤田委員、三橋委員
- 欠席者 内山委員（会長）、一戸委員、八木橋委員
（委員16名のうち13名が出席）
- 事務局 秋元環境管理課長、川村参事、鈴木環境事業所長、福士資源循環係長、
吹田総括主査、田沢環境事業係長、齊藤主事
- その他 エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社 2名
（弘前市一般廃棄物処理基本計画策定支援業者）
岩手大学人文社会科学部 笹尾准教授

○資 料

- ・【資料1】組成分析調査結果（10月分）
- ・【資料2】事業者アンケート結果
- ・【資料3】廃棄物・リサイクル関連の動向
- ・【資料4】弘前市の概要
- ・【資料5】ごみの分別・排出方法、収集方法
- ・【資料6】施設の整備状況
- ・【資料7】現行計画の検証
- ・【資料8】次期計画における目標設定等

○内 容

- 1 開会
- 2 講演

「地域から始める3R促進（目標と手段）」

講師：岩手大学人文社会科学部 准教授 笹尾 俊明氏

⇒約1時間の講演を実施した。

- 3 会議

⇒資料について事務局より説明後、委員から意見等が寄せられた。

- 4 閉会

【主な意見・質問等】

○生活排水処理基本計画については、いつ頃提示される予定か。

⇒上下水道部との調整の上、ごみ処理基本計画、生活排水処理基本計画と合わせた「一般廃棄物処理基本計画（原案）」として1月中を目途に提示する予定。

○灰溶融炉が停止している間はどうな対応をしていたのか。

⇒秋田県小坂市にある民間の最終処分場に焼却灰を運搬・埋立を行っていた。

○再生資源回収運動参加団体は何団体程度あるのか。

⇒ここ数年では、約180団体、回収量が約2,000トンで推移している。

○ごみ処理施設の見学機会をもっと一般向けに増やし、ごみの処分にどのくらいコストがかかっているのか周知する必要がある。

⇒引き続き、施設見学等の広報等に努めていきたい。

○目標値については、現行計画と同様の数値になるのか。

⇒弘前市が全国及び県内において非常に低迷している状況を勘案し、現行計画と同様の数値設定を行った。なお、上位計画である県の次期計画（目標年度：平成32年度）も同様の数値となっている。

○第4回会議については、2月を予定しているとのことだが、全体の会議という形ではなく、問い合わせがあった場合に個別に対応する形がよいのではないか。

⇒事務局において、個別に説明等を実施する。

○計画の目標値設定については、温暖化問題のようなトップダウン的な設定ではなく、個別の施策を積み上げていくという方法が重要で、計画においてはその点が考慮されている。

⇒今後も、積み上げについては精査を実施していく。

○単にリサイクル率を上げるということではなく、コストにも配慮する必要がある。

⇒リサイクル率の向上については、費用対効果をしっかり勘案し、環境と経済の両面に配慮した施策展開を行っていく。